

## 学力向上にかかわる学校経営方針

- 生徒の実態、学力調査等のきめ細かな分析により、改善への方策を明確にする。
- 言語活動の充実を図り体験的な学習を取り入れた授業展開をすべての教科、領域で積極的に実施するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行う。
- 学習のねらいと振り返りの場面の設定を明確にし、基礎的、基本的な学習の定着と活用力の育成に努める。
- 少人数指導やチームティーチングを効果的に活用し、個に応じた指導の充実を図る。
- ICT機器を積極的に活用し、生徒の主体的な授業参加により、情報活用能力、プレゼンテーション能力の向上を図る。
- 朝読書や図書館教育を充実させ、生徒の読書力を伸ばし、生き方を考え、生徒の教養を高める。
- 生徒一人一人に応じた、きめ細かな指導を進める。
- 通常学級における支援を必要とする生徒への指導体制の整備を進める。
- 授業のユニバーサルデザイン化を進め、誰にとってもわかりやすい授業づくりに努める。
- 特別支援学級と通常の学級の交流及び共同学習の充実を図る。

## 現状と課題（全国および県の学力学習状況調査等の分析結果）

- ・県の学力学習状況調査の結果から全学年ともにほとんどの項目が県平均および市平均よりも高い正答率であった。「記述式」の問題に対する正答率が1、3年でやや低かった。
- ・1年生は語彙力や言語表現の問題に対する正答率が県平均に比べ低かった。また、3年生が、「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して書く」に課題があった。
- ・全国学力学習状況調査ではほぼすべての項目が全国及び県の平均を上回る結果となった。
- ・全国学力学習状況調査で、(A主として知識)の問題で、語彙に関する問題が全国及び県の平均を3ポイント下回る結果となった。
- ・2年生は1年間「書く力」の向上を目指して課題作文を授業に多く取り入れた結果、「書く力」の県平均を大きく上回る結果だった。

## 課題解決のための方策

- ・「語彙力」を豊かにすることは課題である「書く力」を身につけさせるために必要なことである。したがって、授業中に辞書の活用を積極的に使っていく。
- ・全学年の言語表現の基礎を養うため、授業の最初の5分～10分を利用して、文法の復習や歴史的仮名遣いの練習問題、漢字などの小テストの時間を設ける。
- ・文学的文章での初発の感想や、説明的文章での筆者の主張のまとめ「書くこと」を意識的に取り入れた授業を全学年で共通して行う。ITを活用し、文章の細部にいたるところまで理解させ、それぞれ感じ方が違うことや、表現の仕方も個に応じた形で指導する。
- ・自分の意見や考えを持ち表現するというのが「書くこと」の力を伸ばすと考える。したがって、小グループでの話し合い活動を取り入れていく。IT指導により、活動の中では意図的に発言できるような支援をし、伝わる表現の重要性に気付かせる。また、100字、200字と様々なサイズの原稿用紙を用意し、「読むこと」の授業と関連付けて、短い作文を繰り返し書くことで、「書く」ということそのものや、様々な文章の形式に慣れさせていく。

## 授業における指導の工夫

- ・本時の流れを提示し、めあてや本時の課題を理解させる。
- ・「書くこと」を意識した授業作りを全学年共通して行う。
- ・漢字小テストや文法の復習の時間、小テストなどを実施して、言語表現の基礎基本の力を養う。
- ・国語辞典などを積極的に授業に取り入れる。
- ・質問に対して答える際には理由や考えの根拠を明らかにして、答えを述べるような発問の工夫をする。
- ・ねらいに迫る授業展開にむけて、ITを効果的に活用し、互いの役割を明確にし、「個に応じた指導」を実践する。